横浜こどもスポーツ基金との取り組み

こども達が夢と希望を持てるスポーツとの触れ合い

横浜大会は、こども達がスポーツやトップアスリートと間近に触れ合える機会、また大会を支える観点から大会に携わる機会を、「横浜こどもスポーツ基金」を通じて創出しています。

「横浜こどもスポーツ基金」は、世界トライアスロンシリーズ横浜大会をきっかけにジョンソン株式会社のご寄附により創設されました。

障がいのあるこども達等が「スポーツ」を通じて夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境づくりの実現を目指しています。

横浜こどもスポーツ基金
Yokohama Children Sports Foundation

1 キッズプロジェクト

こども達が大会運営に携わる様々な場面を体験し、「する」・「みる」・「ささえる」スポーツの様々な関わり方を通じて、障がいの有無に関わりなくアスリートを身近に感じることができるキッズプロジェクトを実施しました。

キッズプロジェクト名	対象	人数	内　容
ハイタッチキッズ	3～6年生	20	スタートへ向かう選手たちにハイタッチをしてエールを送りました。
エスコートキッズ	3～6年生	8	表彰台に向かう選手をエスコートし、選手の喜びと感動を肌で感じました。
こどもスポーツ記者	5～6年生	15	取材や撮影の仕方を勉強し、競技風景の写真撮影やパラアスリートを実際にインタビュー取材し、記事にまとめました。
エイドキッズ	5～6年生	10	フィニッシュ後のエリート選手へタオルを渡し、完走する事、全力を出し切った達成感を感じることができました。
ビクトリーブーケキッズ	3～6年生	10	表彰式において選手へ花束贈呈を行い、会場の熱意に拍手に大興奮でした。
English キッズ	5～6年生	2	パラトライアスロン・エリート女子・選手取材時の通訳を担当しました。

2 横浜こどもスポーツ新聞

大会前日11日(金)、「こどもスポーツ記者」のキッズ達は、ニコンイメージングジャパンのご協力により貸出いただいたデジタル一眼レフカメラの使い方や撮影方法のアドバイスを受け、また日刊スポーツ新聞社のご協力により、取材のコツや記事の書き方を教わりました。

大会当日12日(土)は、早朝のエリートパラトライアスロンの白熱したレースや表彰式などを撮影し、さらには緊張しながら、なおかつ楽しみながら、エリートパラトライアスロン選手の直接インタビュー取材を行いました。

また大会後には、「キッズプロジェクト」を体験して感じたこと、選手への取材から伝えたいことなどを“記者”として記事にまとめました。

「こどもスポーツ記者」の活躍によって完成した「横浜こどもスポーツ新聞」は、6万人を超える市内小学校の全5・6年生だけでなく、東日本エリアの日刊スポーツ新聞定期購読世帯約100万世帯にも配布されました。

ニコンイメージングジャパン ニュースリリース
（2018年7月24日）

発行日	**7月9日（月）**
配布対象	市立小学校5・6年生全児童 こどもスポーツ記者参加者（学校） 日刊スポーツ新聞定期購読者
横浜市内学校	**66,000部（346校）** ・市立小学校（339校） ・市立中学校（2校） ・義務教育学校（2校） ・特別支援学校（1校） ・市外小学校（1校） ・私立小学校（1校）
購 読 者	日刊スポーツ新聞定期購読 100万世帯（東日本エリア）
支　援	横浜こどもスポーツ基金
協　力	・株式会社ニコンイメージングジャパン（デジタル一眼レフカメラ他の機材貸出、カメラ操作指導） ・日刊スポーツ新聞社（記事作成指導、新聞制作）